



立教大学

特別支援学校卒業後の 成人障がい者に対する 運動支援と支援体制の確立

立教大学 松尾ゼミナール A班

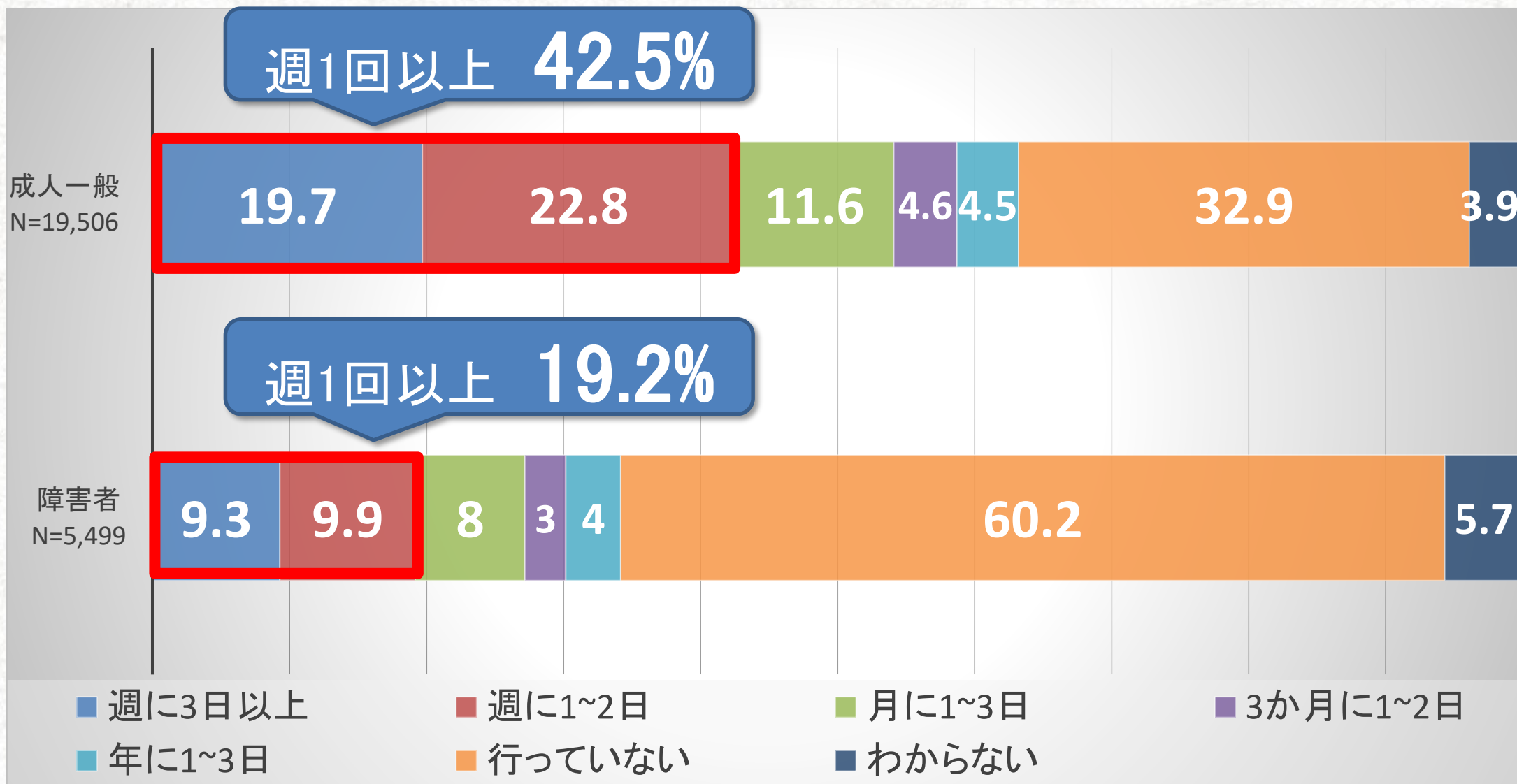
○近藤 寛海 大島 菜月 小松 恭子 齋藤 匠馬
佐々木 綾乃 清水 晃哉 高柴 裕 蓮井 千那魅

第2期スポーツ基本計画

～障がい者スポーツの施策目標～

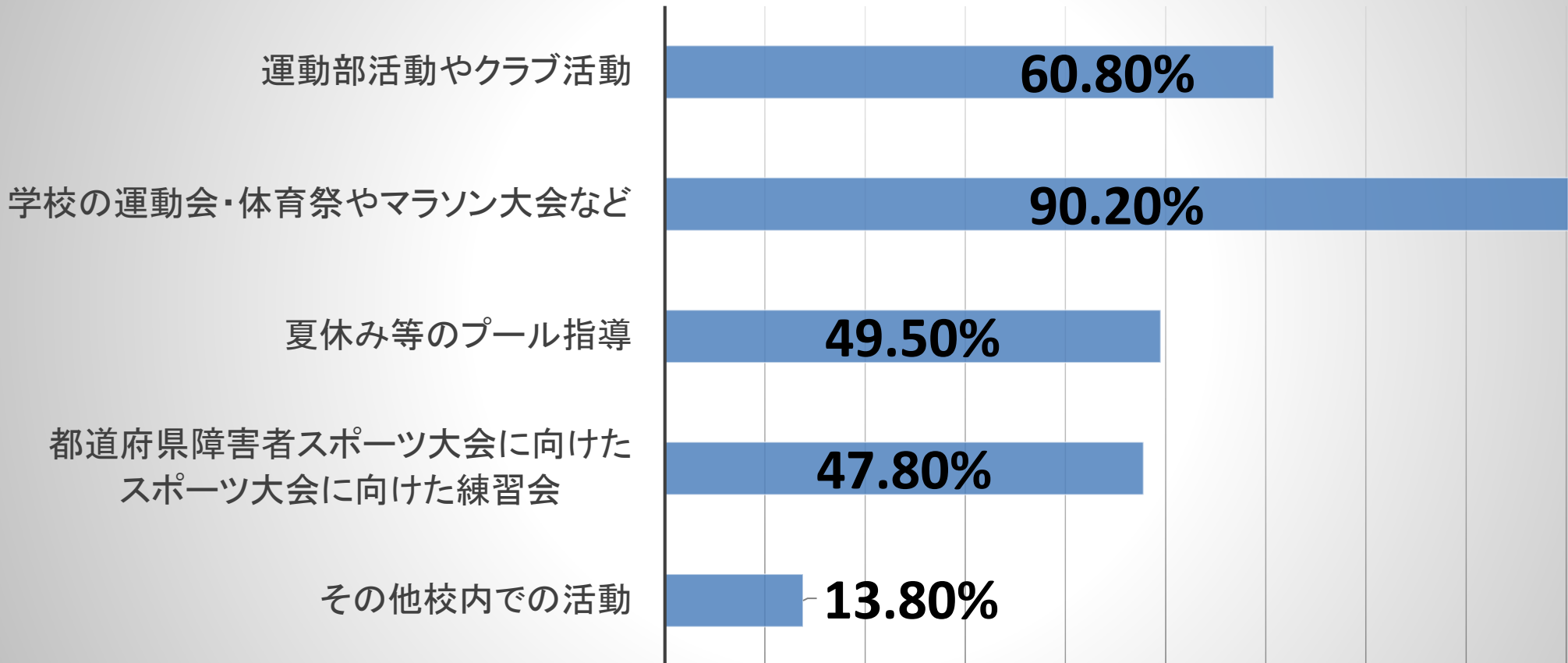
障害者の週1回以上の
スポーツ実施率を40%程度
(若年層(7歳～19歳)は50%程度)
とすることを目指す。

過去1年間にスポーツレクリエーションを行った日数



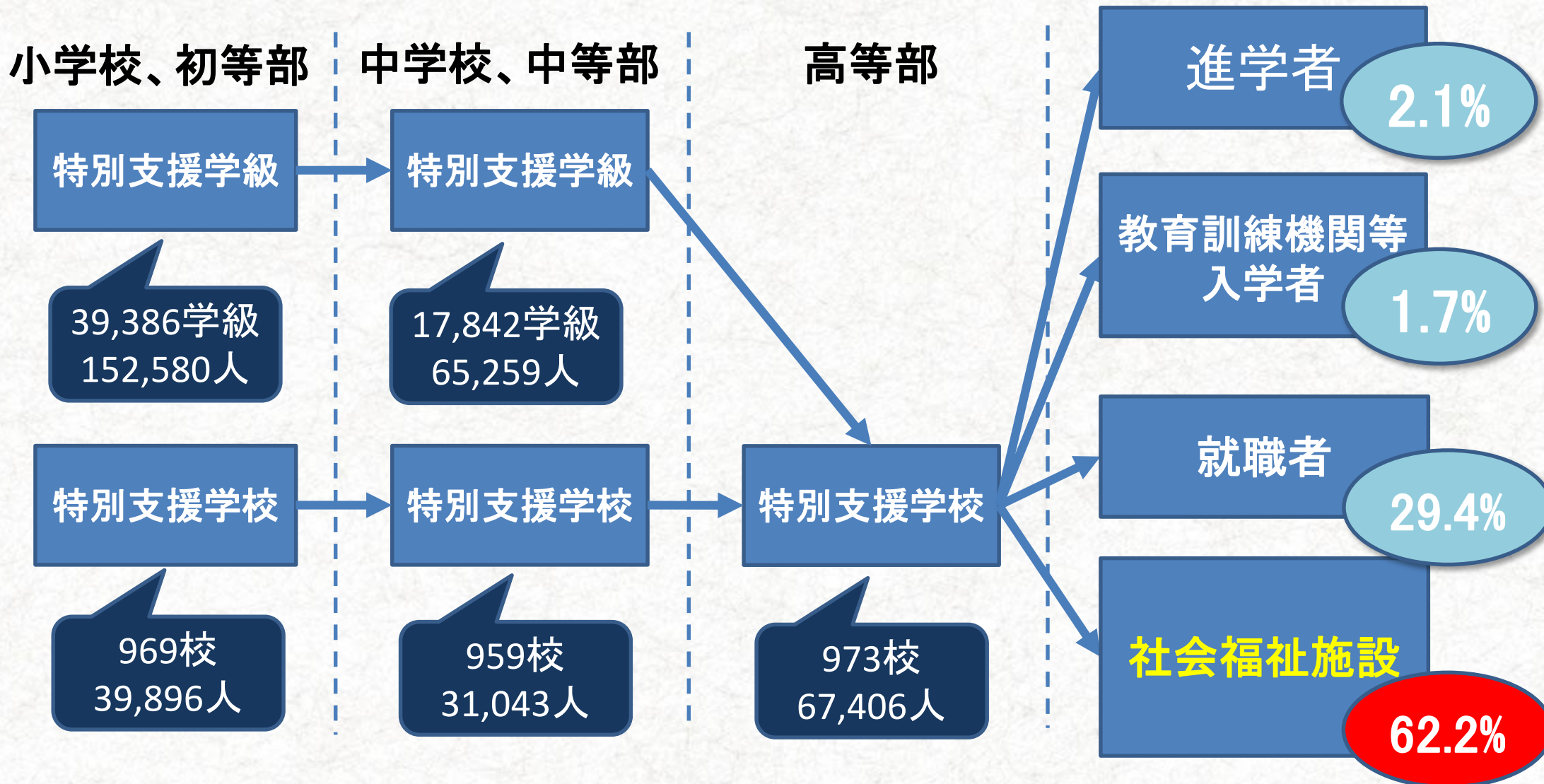
特別支援学校の運動機会

体育の授業以外におけるスポーツの機会



➡ 卒業と同時に**運動機会の供給が不十分になる**

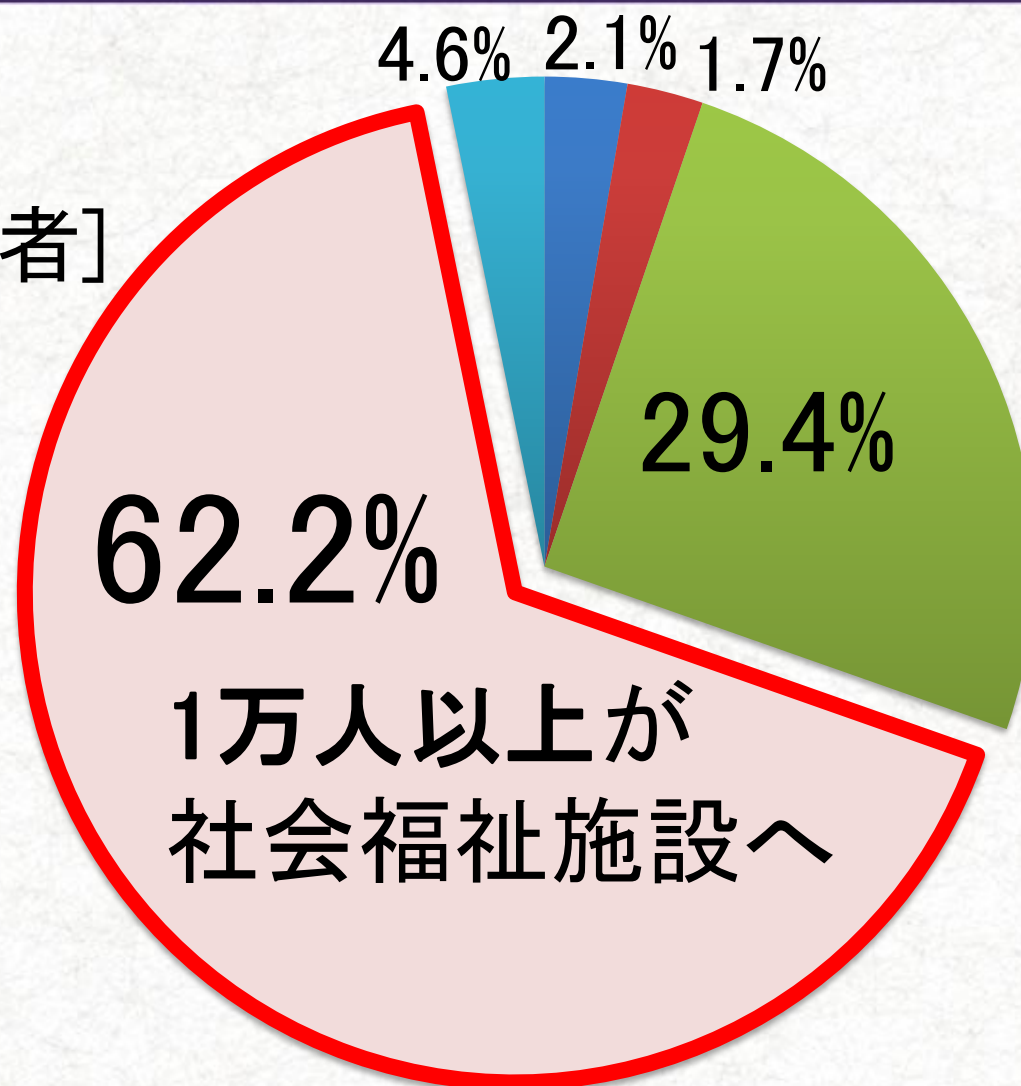
障がい者教育の流れ



特別支援学校高等部卒業後

[特別支援学校高等部卒業生]

- ・全国に973校
- ・卒業生：20,882人
(平成28年3月)



62.2%

1万人以上が
社会福祉施設へ

■ 進学者 ■ 教育訓練機関等入学者 ■ 就職者 ■ 社会福祉施設等入所・通所者 ■ その他

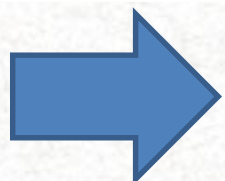
社会福祉施設とは

「社会福祉施設は、老人、児童、心身障害者、生活困窮者等社会生活を営む上で、様々なサービスを必要としている者を援護、育成し、または更生のための各種治療訓練等を行い、これら要援護者の福祉増進を図ることを目的としている。」(厚生労働省)

	施設数	定員(人)	在所人数
保護施設	228	19,038	18,692
老人福祉施設	5,004	150,982	139,013
障がい者支援施設等	5,191	177,317	147,890
身体障がい者社会参加支援施設	299	360	---
児童福祉施設	33,490	2,530,471	2,441,544

社会福祉施設利用者

	総数	施設通所者	施設入所者	施設利用者割合
身体障がい者	382.1万人	5.96万人	5.5万人	3%
知的障がい者	57.8万人	10.8万人	11.2万人	38%



社会福祉施設は知的障がい者が多く利用してる

先行研究

「知的障害者は、心身ともに非常にポジティブな効果が期待できるスポーツに参加したくても参加できない現状にあり、このことは看過することができない重大な問題であるといえる。」(大山,2017)



特別支援学校卒業後の
社会福祉施設を利用する
成人知的障がい者に着目

社会福祉施設の現状

- 成人障がい者の運動場所:「社会福祉施設」が41%である(東京都,2012)
- 「施設によって作業内容は異なり作業による運動量確保が難しい場合や、職員のゆとり不足から運動やスポーツにまで力を入れることが難しい施設もある」(山本,2012)
- 「指導者やボランティアの不足、スポーツ施設の不足等」(山本,2012)がある

→社会福祉施設における運動機会の不足、指導員等の不足

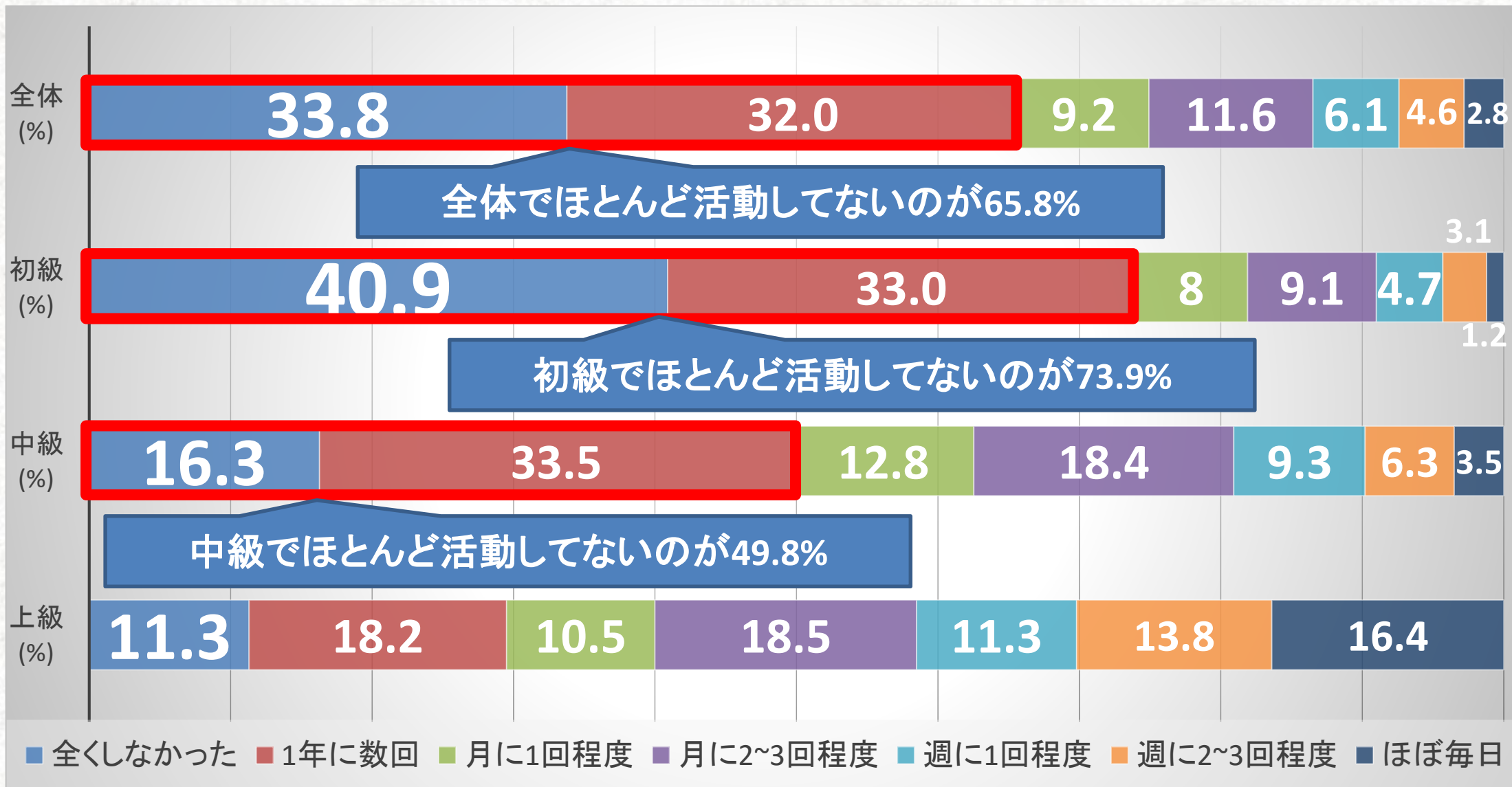
施設の連携をめぐる課題

- 文部科学省の調査によると、障がい者スポーツ関係団体・施設が障がい者スポーツ推進中核になりつつ、社会福祉関係団体等と連携・協働体制を構築していくことが必要とある（文部科学省,2016）
- 社会福祉協議会と障害者スポーツ協会の協力関係は10%である
（笹川スポーツ財団,2015）

障がい者スポーツ指導員の実態

- 指導員登録数 24,397名（2017年9月現在）
（内訳）上級指導員778名、中級指導員3,335名、
初級指導員20,274名
- 活動頻度は「全くしなかった」が33.8%
- 指導に「不安がある」と答えた人は46.9%

障がい者スポーツ指導員の活動



作業仮説

1

在学時にあった運動機会の供給がなくなることで特別支援学校卒業後の障がい者に対する運動支援が不十分であること

2

日本障がい者スポーツ協会と社会福祉施設を繋げるための社会福祉協議会などそれぞれの機関の連携が不足している

3

現場に指導員、ボランティアが少ないこと

インタビュー調査

- ①対象:練馬区社会福祉施設職員1名
- ②時期:2017年8月18日
- ③方法:半構造化インタビュー

【得られた知見】
日常的な運動プログラムは導入しているが、それ以外で運動の場面はほとんどない。

- ①対象:視覚障がい者3名、肢体不自由者1名
- ②時期:2017年8月30日、31日
- ③方法:半構造化インタビュー

【得られた知見】
運動をするにもやはり指導員やボランティアの力が必要不可欠。日常の運動にしても大会にしてもサポートしてほしい。

社会福祉施設

障がい者

社会福祉協議会

障がい者
スポーツ
指導員

- ①対象:国立市社会福祉協議会職員3名
- ②時期:2017年8月8日、9月21日
- ③方法:半構造化インタビュー

【得られた知見】
障がいを持つ方から運動の相談を受けることもあるが知識がなく答えられない。また、ボランティアの募集をかけてもなかなか集まらないのが現状。

- ①対象:上級障がい者スポーツ指導員1名
- ②時期:2017年8月31日
- ③方法:半構造化インタビュー

【得られた知見】
現在指導員の資格を持っていてもなかなか活用できない人が多いため、何かできないか模索中。

社会福祉施設

- ①対象：練馬区社会福祉施設職員1名
- ②時期：2017年8月18日
- ③方法：半構造化インタビュー

【得られた知見】

日常的な運動プログラムは導入しているが、それ以外で運動の場面はほとんどない。

社会福祉協議会

- ①対象：国立市社会福祉協議会職員3名
- ②時期：2017年8月8日、9月21日
- ③方法：半構造化インタビュー

【得られた知見】

障がいを持つ方から運動の相談を受けることもあるが知識がなく答えられない。また、ボランティアの募集をかけてもなかなか集まらないのが現状。

障がい者スポーツ指導員

- ①対象：上級障がい者スポーツ指導員1名
- ②時期：2017年8月31日
- ③方法：半構造化インタビュー

【得られた知見】

現在指導員の資格を持っていてもなかなか活用できない人が多く、何かできないか模索中。

障がい者

- ①対象：視覚障がい者3名、肢体不自由者1名
- ②時期：2017年8月30日、31日
- ③方法：半構造化インタビュー

【得られた知見】

運動をするにもやはり指導員やボランティアの力が必要不可欠。日常の運動にしても大会にしてもサポートしてほしい。

社会福祉施設を利用する成人
知的障がい者の運動支援体制
の確立を目的とした支援策

提言のポイント①

ボランティア・
指導員の活動
しやすい環境

機関同士の
連携

障がい者を
取り巻く環境

卒業後の
支援不足

指導員の
不安

安定した
運動機会の
供給

活動における
指導員の不安
を取り除く

提言のポイント②

- 「普通の人と同じことができないため、普通の生活を送っていても“楽しみ”を見出すことができない。でも普通の人と同じことができれば自信にもなるし生きる希望にもなるからそれは貴重な経験になる。」
(付加的に実施した知的障がい者に対するインタビュー調査より,10月10日)
- 障がい者における運動の意義として、「身体面や精神面で良い変化が認められた」(奥田ら、2006)とされている



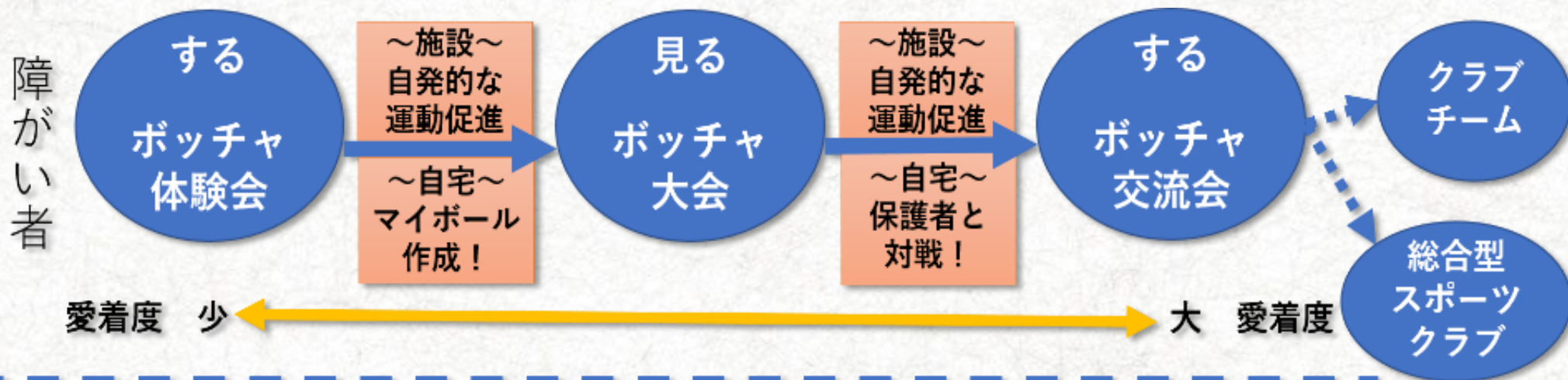
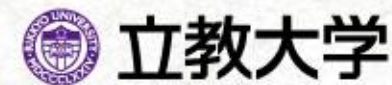
STEP UP PROJECT

～みんなの環を広げよう～

STEP UP PROJECT

～みんなの環を拡げよう～

全体図



ボッチャとは

ボッチャはパラリンピックの正式種目。

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うスポーツ。((一社) 日本ボッチャ協会より)

パラリンピックだけでなく・・・

スペシャルオリンピックスの正式種目

スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織。(公財)スペシャルオリンピックス日本)



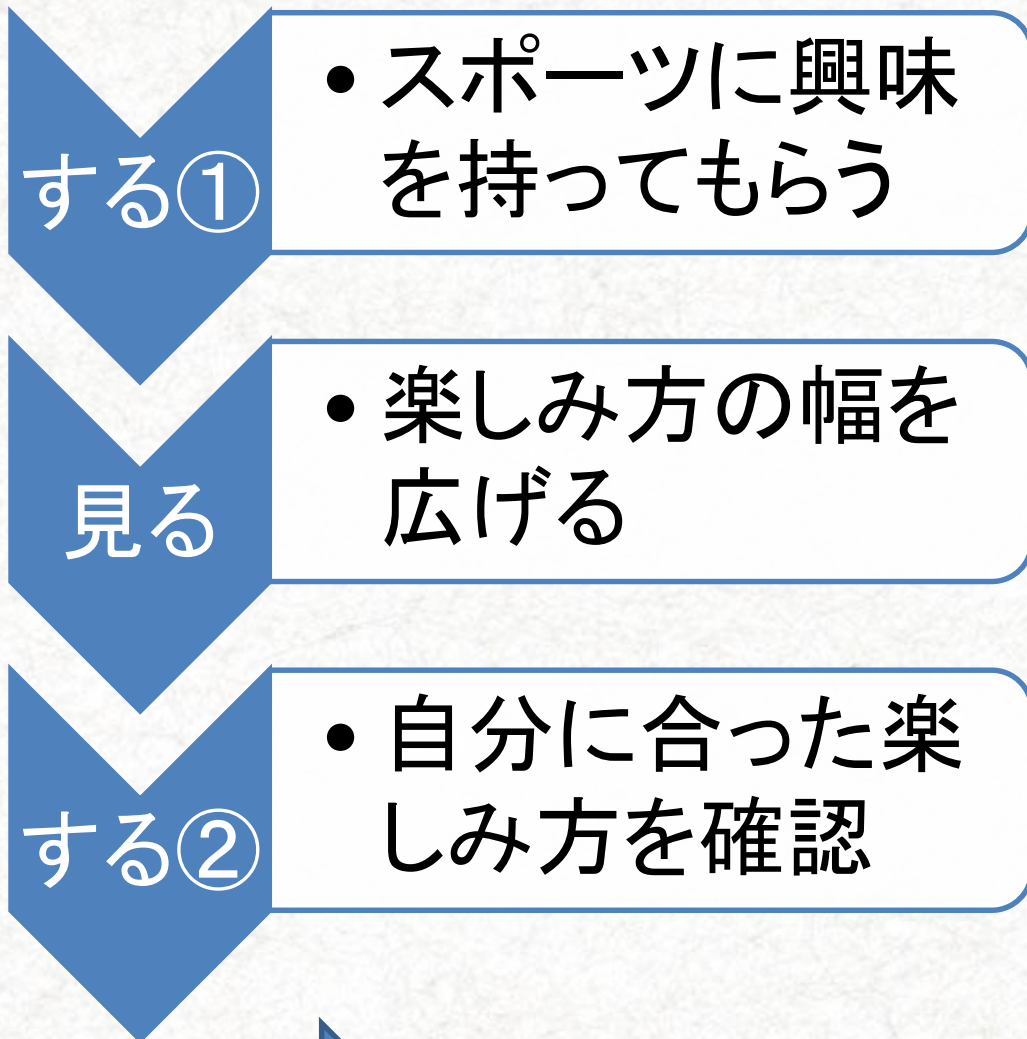
知的障害のある人にスポーツを



先行研究

- 「ボッチャは、戦術を考えて作ること、ボールを投げるタイミングや力加減を微妙に調節しジャックボールに近づけることなその競技自体の面白さを理由に挙げている選手も多かった。また、障害のある人もない人も一緒に誰もが楽しめるという理由もほかのスポーツにはない特徴であった。」(奥田ら,2006)

支援策の特徴（障がい者）



➡ 「スポーツ＝楽しい」につなげる

支援策の特徴（指導員）

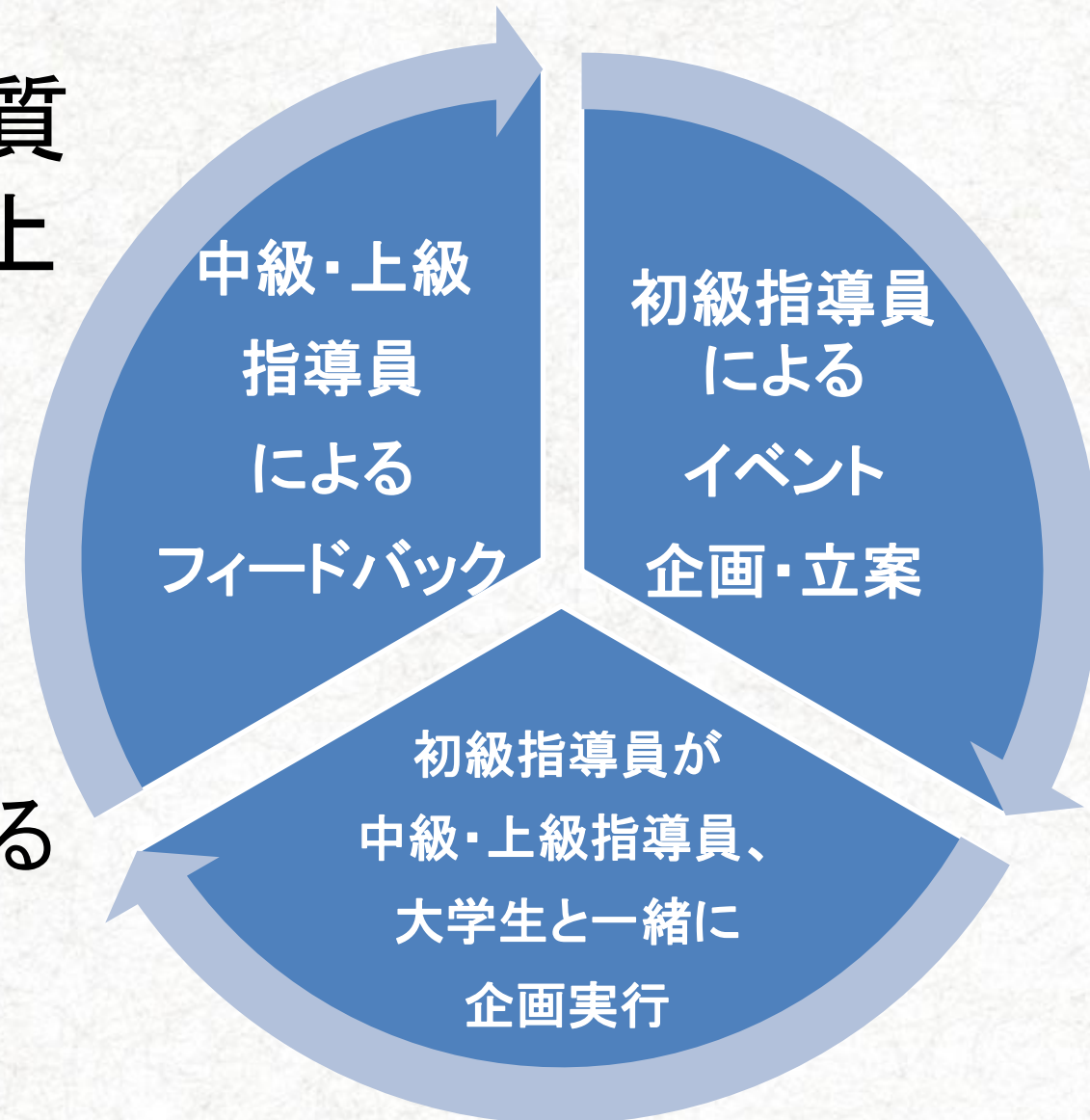
企画の質と指導員の資質
が回数を重ねる毎に向上

【初級指導員】

不安を軽減し、活動できる

【中級・上級指導員】

指導を通じ、新たな学びとなる



初級指導員へのフィードバック

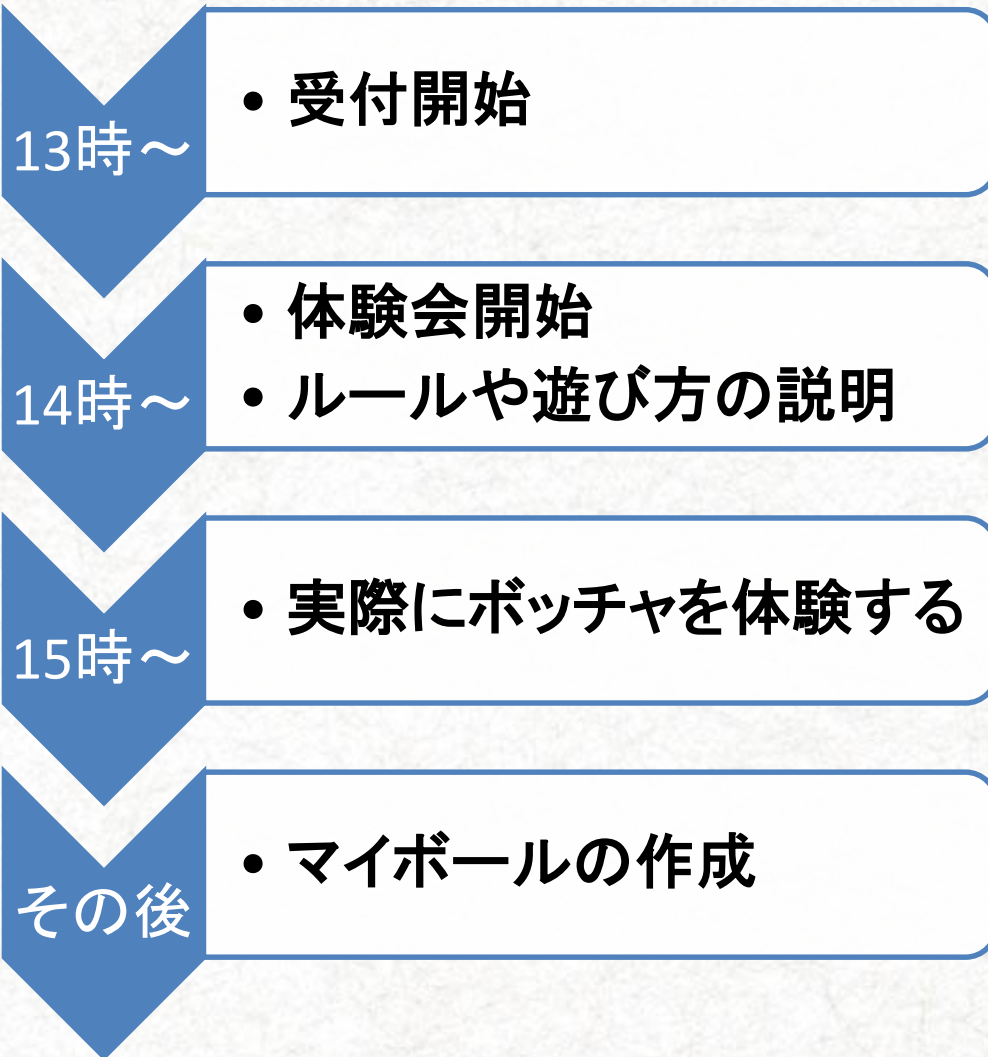


立教大学

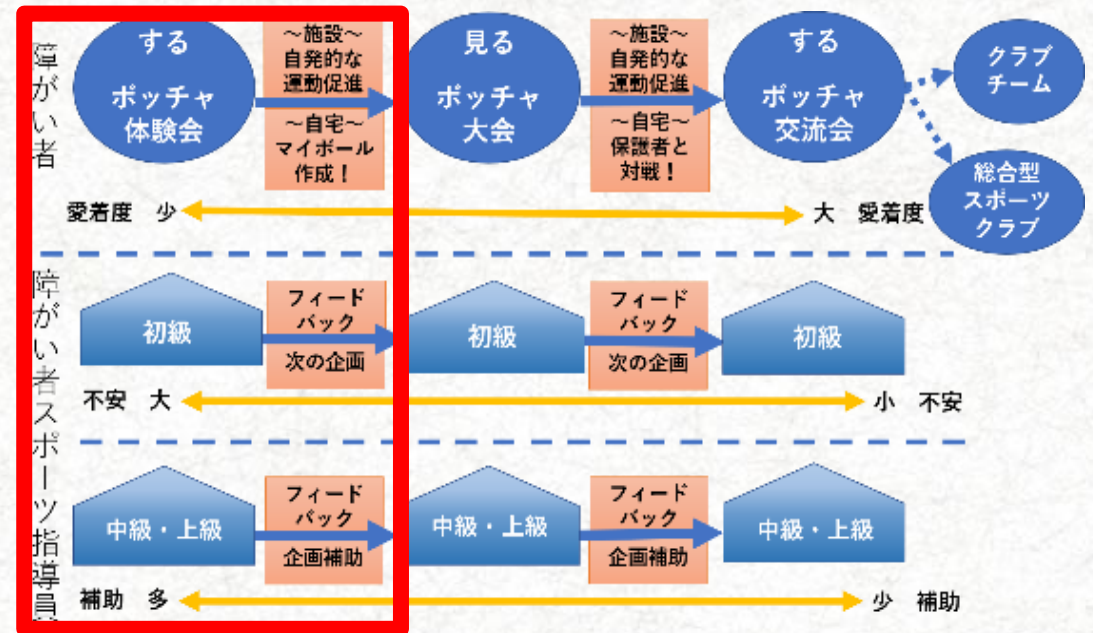
- 中級・上級指導員は初級指導員が作成した指導プログラムを事前に確認し必要に応じてアドバイスする
- 中級・上級指導員は各会終了後に初級指導員に対してフィードバックを行う



体験会スケジュールの一例



- 実行委員による企画運営
- 運営補助として実行ボランティアの参加



マイボールの作り方

【材料】

小麦粉・水・油・砂利・雑巾・ビニールテープ

【作り方】

1. 小麦粉に適量の油を入れて混ぜる
2. 粘土の中に適量の砂利を詰めて粘土で包み込むように丸め、ビニールテープで保護する
3. その周りを雑巾で包み込み、ビニールテープでぐるぐる巻きにする



体験会の目的

障がい者

- 「する」楽しみを知る
- ボッチャを楽しくプレイする

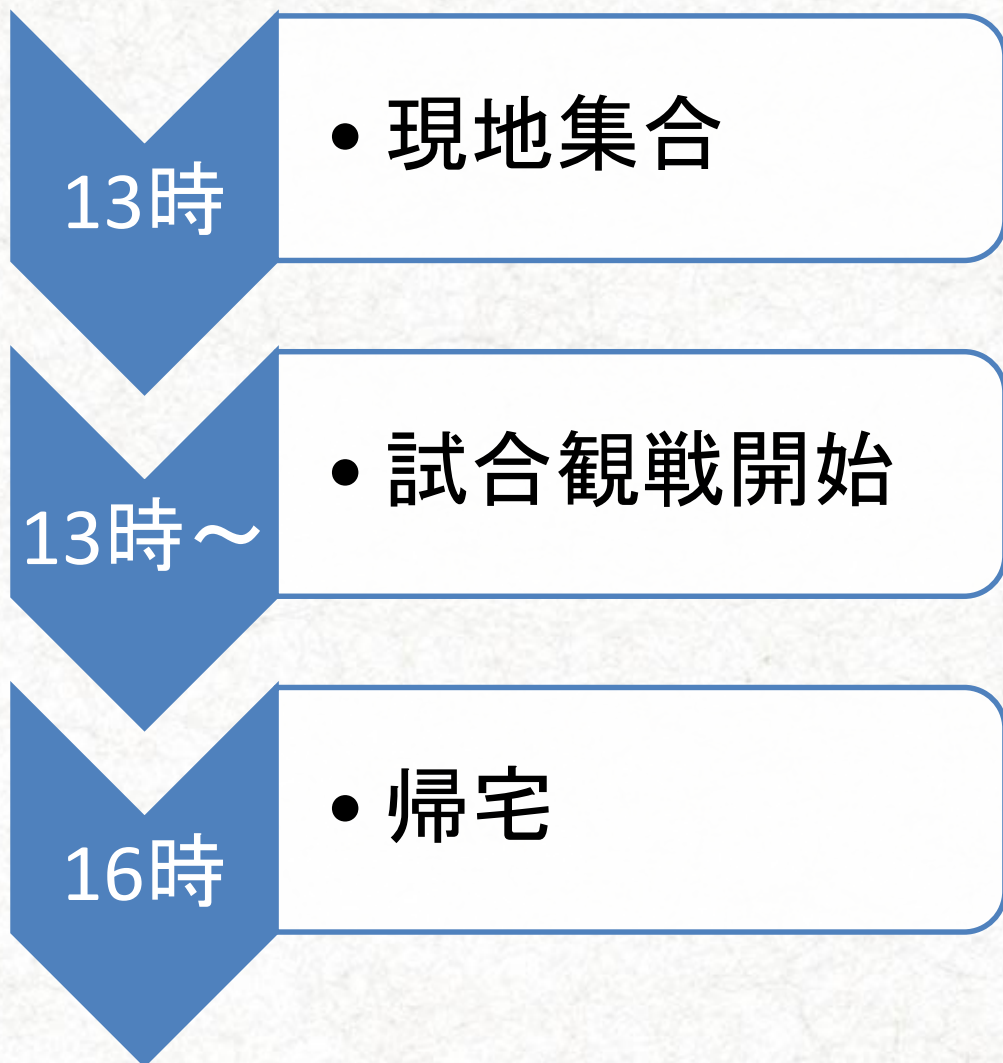
指導員

- 初級：昇級必要時間の確保
- 中級・上級：初級の指導によって自らも学ぶ

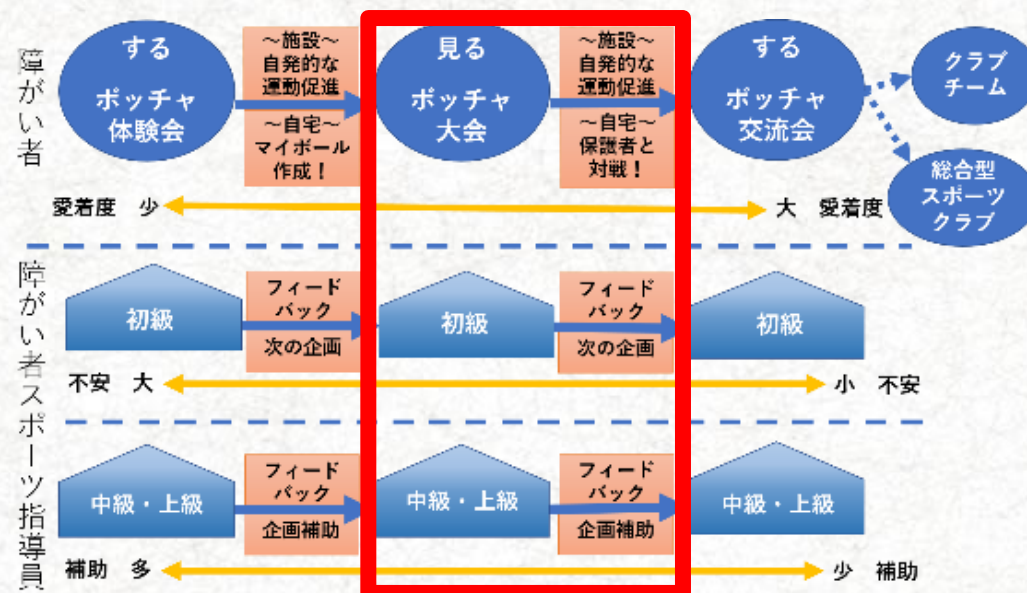
ボランティア

- 障がいへの理解を深める
- 障がい者と触れ合う

試合観戦スケジュールの一例



- 試合会場に保護者または送迎ボランティアが送迎
- 大会主催のボッチャ体験会への参加



試合観戦の目的

障がい者

- 「見る」楽しみを知る
- お気に入りの選手との出会い

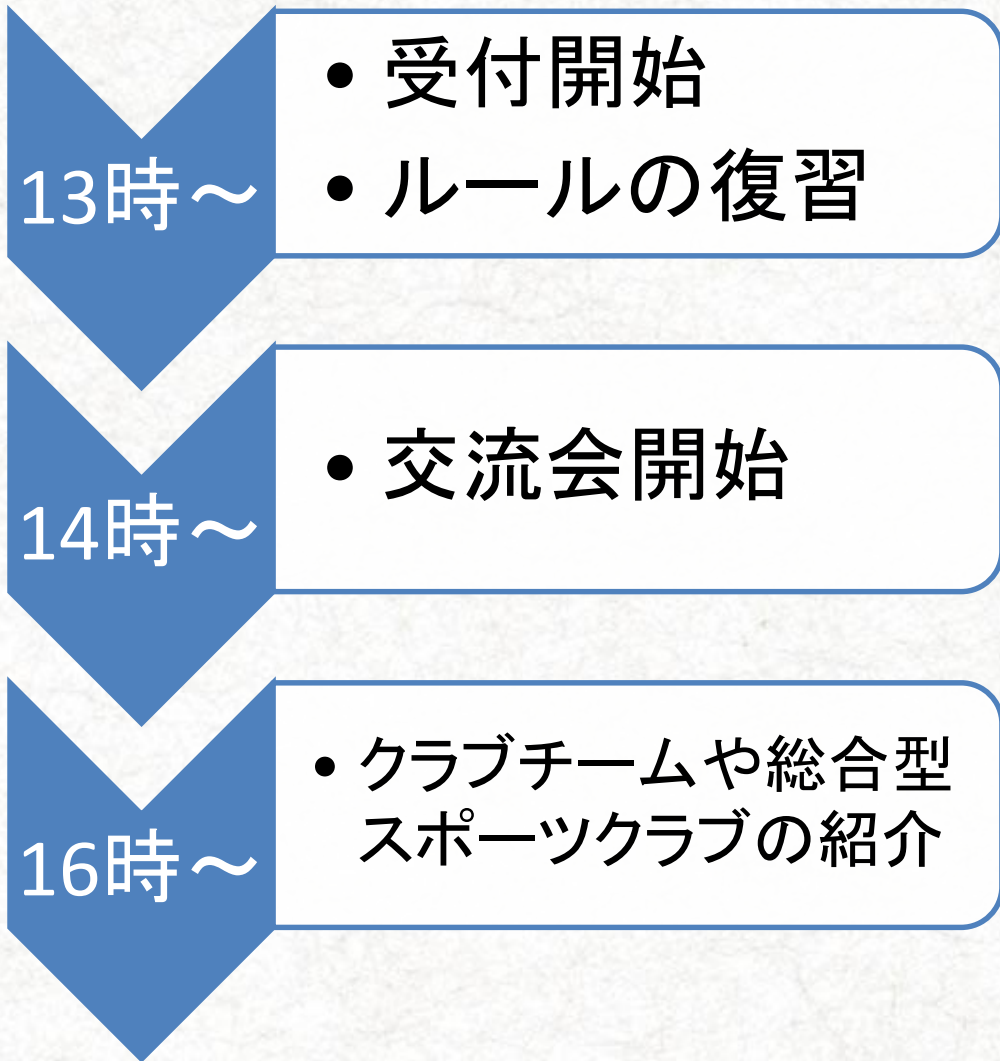
指導員

- 障がいへの理解を深める
- 競技への理解を深める

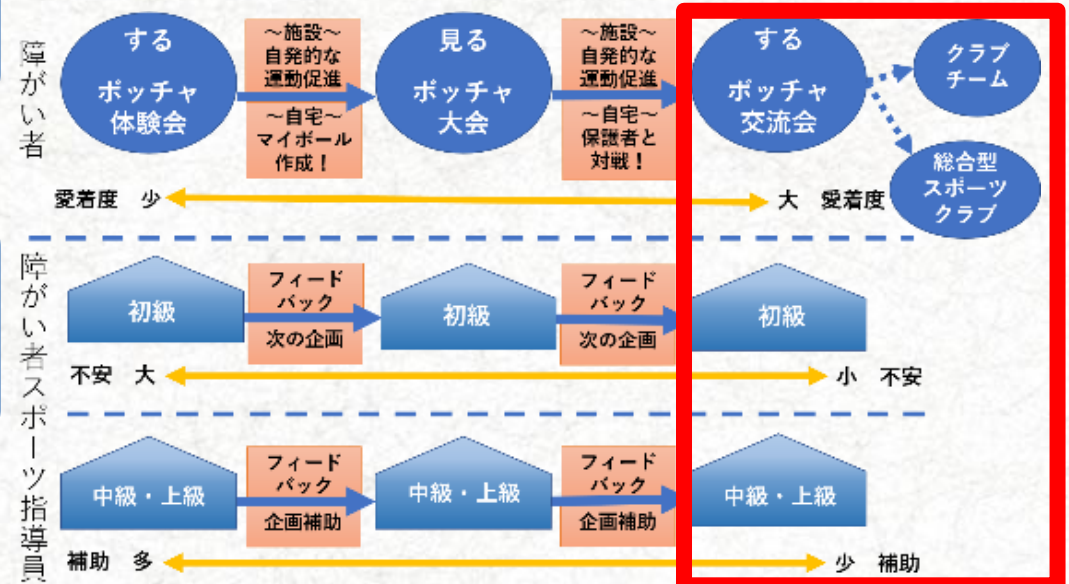
ボランティア

- 障がいへの理解を深める
- 障がい者と触れ合う

交流会スケジュール例



- プログラムを受講する施設同士で企画されるボッチャの交流会
- 実行ボランティアが交流会の運営補助



交流会の目的

障がい者

- 交友関係を広げる
- 新たな活動場所の情報獲得

指導員

- 初級：昇級必要時間の確保
- 中級・上級：初級指導員の指導によって自らも学ぶ

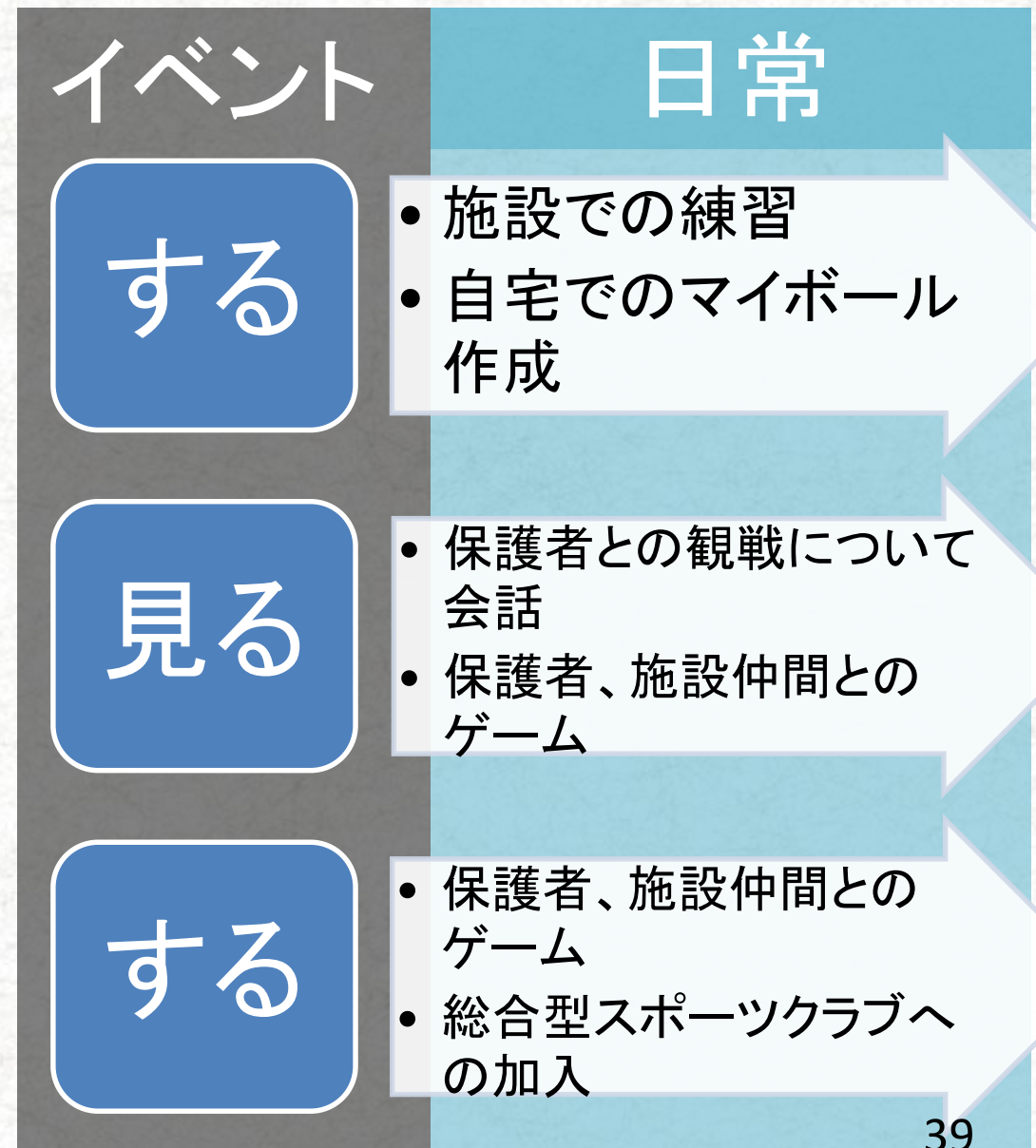
ボランティア

- 障がいへの理解を深める
- 障がい者と触れ合う

イベントの合間

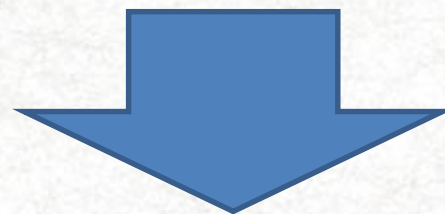
【日常の運動促進】

- マイボール作成
- 大会観戦
- ボッチャ交流会



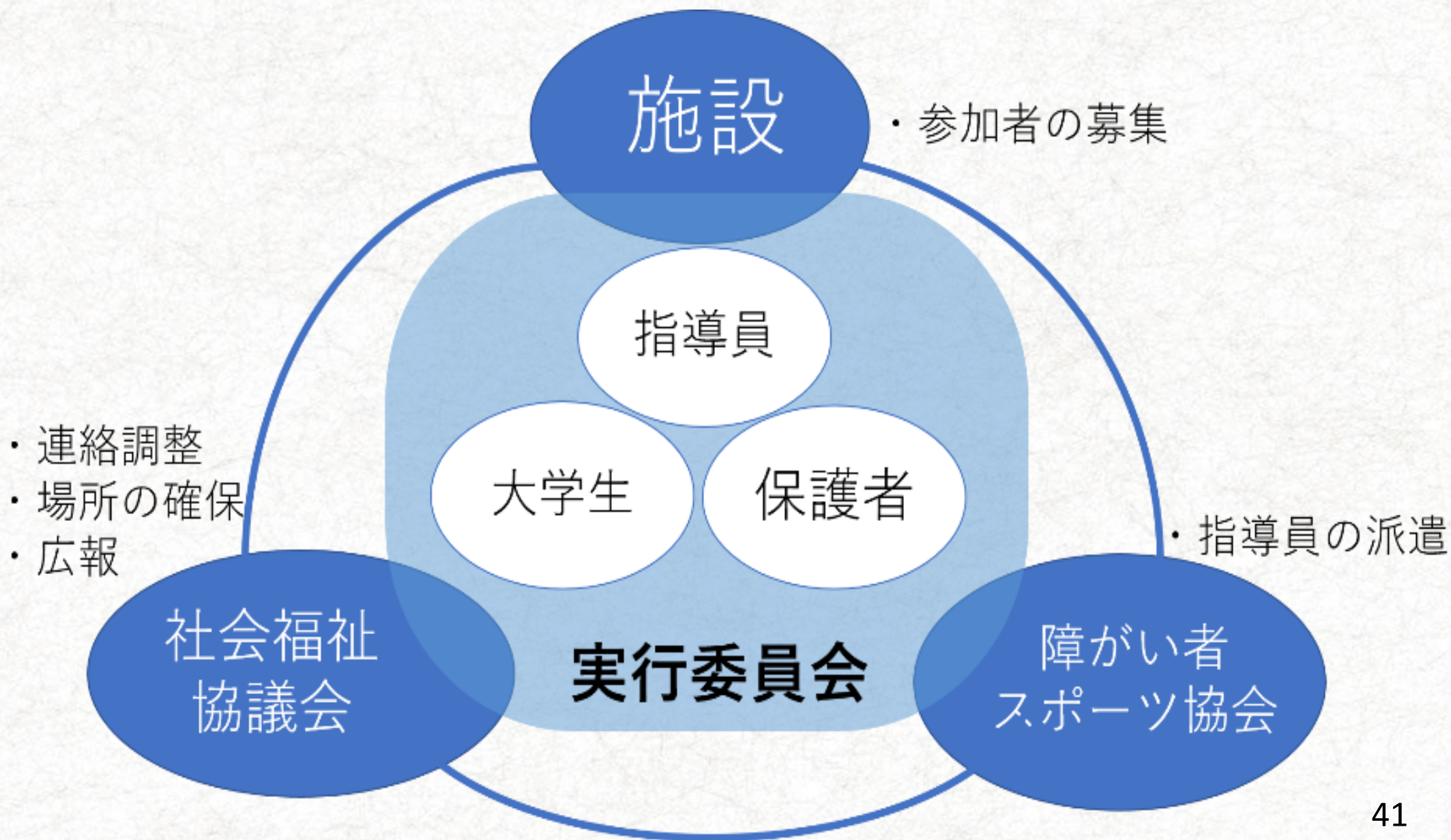
支援策のメリット

- 障がい者が安心して運動ができる
- 初級指導員が安心して指導することができる
- 中級・上級指導員も学ぶことができる
- 指導員に興味のある大学生の実戦経験確保
- 保護者の不安解消と当事者とのスポーツ享受



参加したそれぞれにメリットが得られる

支援策の運営体制



実行委員会の構成図

企画部

- ・ 大学生
- ・ 指導員

↓ 当日の指示

実行/送迎ボランティア

- ・ 大学生
- ・ 指導員
- ・ 保護者

当日の運営のお手伝い

実行委員会（企画部）の活動

- スポーツプログラムの作成
- 日程・スケジュールの調整
- ボランティアの募集
- 当日の企画運営



これらの活動をサポートするためには
社会福祉施設、障がい者スポーツ協会、
社会福祉協議会の協力が必要

それぞれの支援

社会福祉施設

- 参加者の募集
- 運営補助

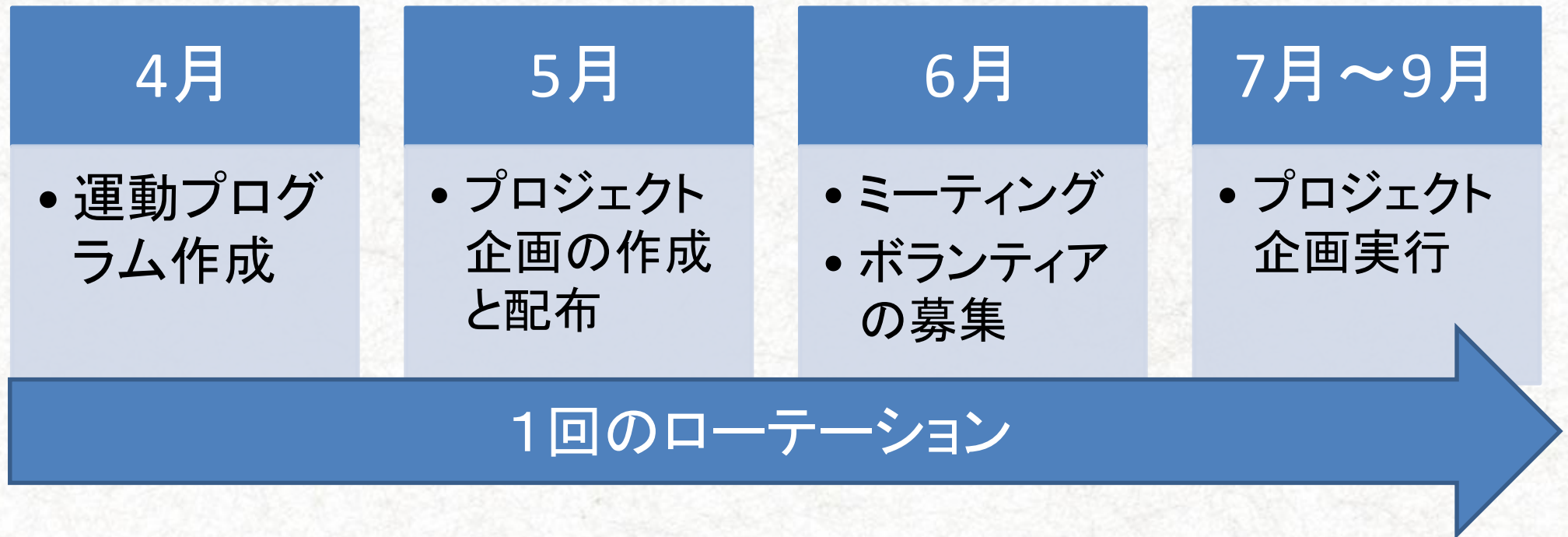
社会福祉協議会

- 運営会議の日程調整
- イベント場所の確保
- 広報活動

障がい者 スポーツ協会

- スポーツ指導員の派遣

運営体制・支援策の動き



企画部→大学生・初級指導員2名、中級・上級指導員2名

実行・送迎ボランティア→大学生・指導員・保護者

指導員の募集

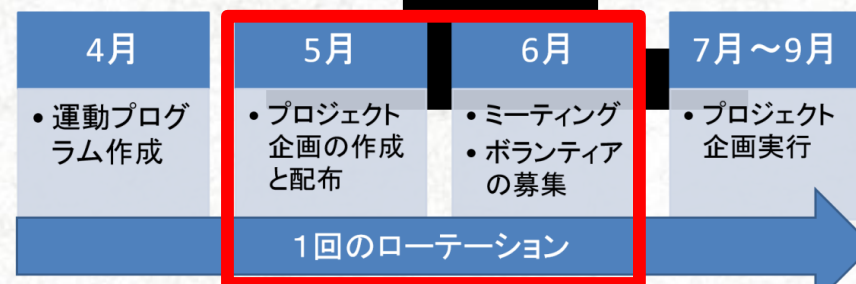
指導員の募集について障がい者スポーツ協会の
メーリングリスト、情報誌を利用し情報発信を行う

To 初級指導員

To 中級・上級指導員

(例) 学生や中級・上級指導員の方と一緒にボッチャのイベントのプログラム作成から企画運営までやってみませんか？やる気のある人待ってます！

(例) 学生・初級指導員と一緒にボッチャのイベントの企画運営を行い経験値をゲットしませんか？初級指導員の活動のためにぜひ力を貸してください！



企画の流れ



立教大学

初級指導員・大学生

初級指導員運動プログラムをミーティングまでに作成する。

大学生は中級・上級指導員から障がい者スポーツに関する研修を受ける。

中級・上級指導員

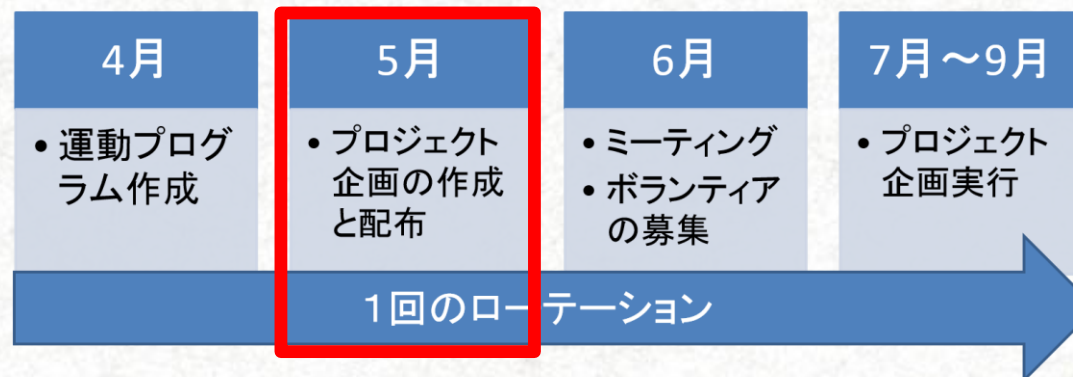
作成された運動プログラム原案を実現可能なものへとするために、大学生・初級指導員と一緒にイベント全体の企画を進める。

完成
プログラム
イベント

社会福祉協議会・障害者スポーツ協会の協力のもと、企画部とプログラムに参加する施設で運営会議を行う。

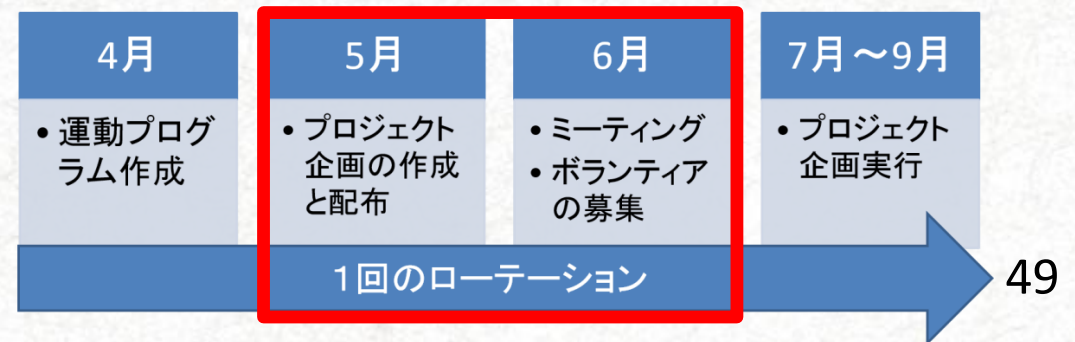
参加する施設の募集

- 企画部による支援プログラムが完成したらデータを配布し、該当する施設に配布する
- ボッチャのイベントの宣伝を行い、社会福祉協議会協力のもと参加希望の施設と企画部でイベントの打ち合わせを行う



指導員・ボランティアの募集

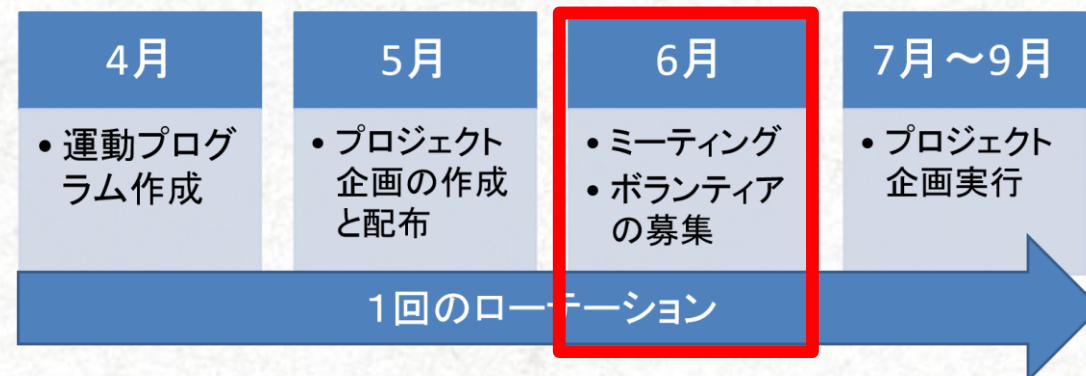
- 各大学のボランティアセンター等を利用し、ボランティアサークルに募集を募る
- 個別でボッチャの指導をするため、最低でも20人以上のボランティアを集める
- 事前に研修会を開き、ボランティアの参加しやすい環境を整える



ボランティア研修会内容

【カリキュラム】

- 知的障がい者への理解を深める
- ボッチャについて知ってもらう
- 支援プログラムについて
- 注意事項



具体的なスケジュール例①

2017年7月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

7月15日: する
体験会

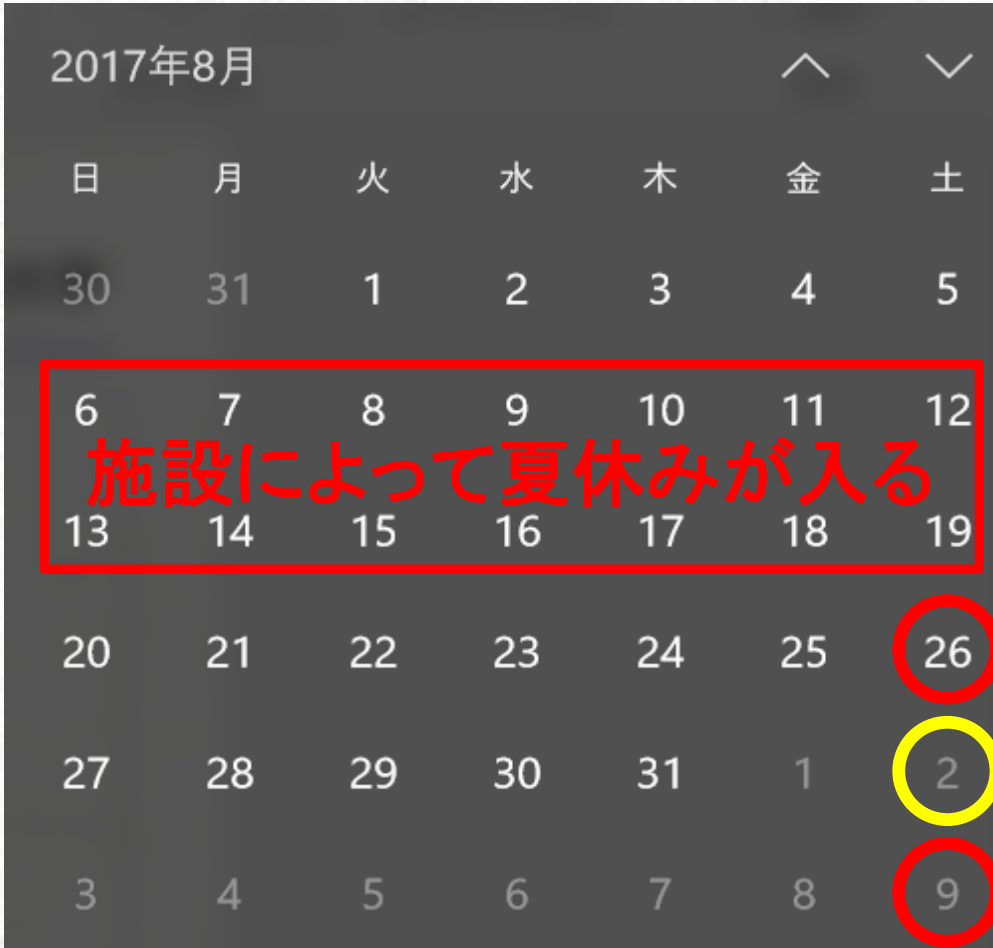
7月22日: 見る
東京都障害者スポーツ大会

7月29日: する
交流会

○...する ○...見る

4月	5月	6月	7月~9月
• 運動プログラム作成	• プロジェクト企画の作成と配布	• ミーティング • ボランティアの募集	• プロジェクト企画実行
1回のローテーション			

具体的なスケジュール例②



施設によって夏休みが入る

○・・・する ○・・・見る

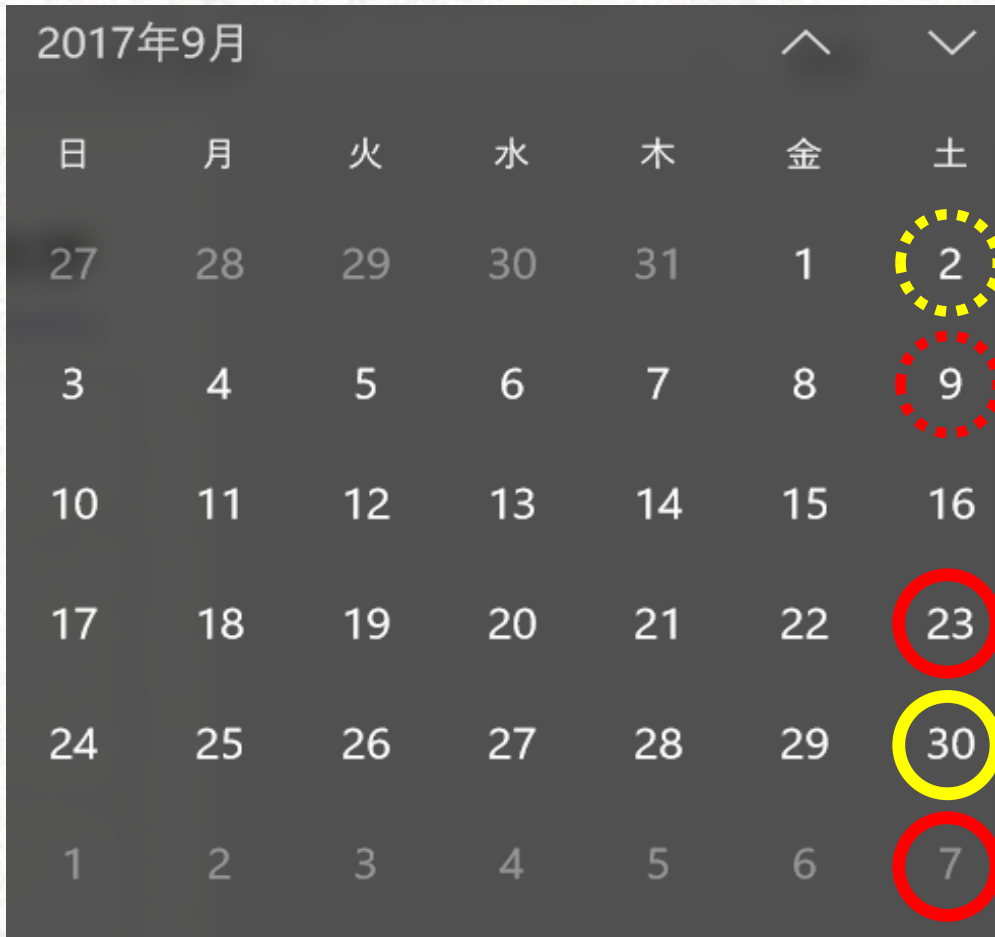
8月26日: する
体験会(練習会)

9月2日: 見る
千葉ボッチャ選手権大会

9月9日: する
交流会

4月	5月	6月	7月~9月
• 運動プログラム作成	• プロジェクト企画の作成と配布	• ミーティング • ボランティアの募集	• プロジェクト企画実行
1回のローテーション			

具体的なスケジュール例③



9月23日: する
体験会(練習会)

9月30日: 見る
CACカップ(学生交流戦)

10月7日: する
交流会

○...する ○...見る

4月	5月	6月	7月~9月
<ul style="list-style-type: none"> 運動プログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト企画の作成と配布 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティング ボランティアの募集 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト企画実行
1回のローテーション			

運営予算の内訳

広報費	社会福祉協議会協力のもとデータ配布の形でプログラムを配布するため、広報費は0円	【全体予算】 ボランティア参加者ともに20名を想定 計287,014円 公益財団法人 大和証券福祉財団 の助成金を利用 ～上限30万円～
マイボール:60個	小麦粉6kg 204円/kg×6=1224円、油3kg 210円/kg×3=630円 雑巾60枚 289円/10枚×6=1734円、水・砂利→無償 カラーテープ20本 108円/2本×20=2,160円	
体験会	ボランティア保険20名分 500円/人×20=10,000円 参加者保険20名分 50円/人×20=1,000円 次回チラシ20枚分 10円/枚×20=200円	
観戦	ボランティア保険20名分 500円/人×20=10,000円 昼食代40名分 540円/人×40=21,600円 次回チラシ20枚分 10円/枚×20=200円	
交流会	ボランティア保険20名分 500円/人×20=10,000円 参加者保険20名分 50円/人×20=1,000円 次回チラシ20枚分 10円/枚×20=200円	
謝金	活動記録用のスタンプカード 10円/8枚×3=30円 初級指導員への謝礼(JCBギフトカード1,000円分) 980円/枚×20枚=19,600円	

期待される効果

機関同士の
新たな繋がり

指導員の
資格活用率向上

支援策

障害者の
スポーツライフ構築

ボランティアの
活動しやすさ向上

参考文献

- ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 2017「地域別・資格別 登録者数一覧」
- ・厚生労働省 2016「平成28年度社会福祉施設等調査の概況」
- ・厚生労働省 2015「社会福祉施設等調査」
- ・文部科学省 2016「地域における障害者スポーツ普及促進事業」
- ・文部科学省 2017「特別支援教育について 特別支援教育資料(平成28年度)」
- ・文部科学省 2012「地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究 報告書」
- ・文部科学省 2016「地域における障害者スポーツの普及促進について」
- ・内閣府 2015「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(附帯:テロ対策に関する世論調査)」
- ・内閣府 2017「平成29年度版障害者白書」
- ・奥田邦晴ほか 2006「重度障害者を対象にした障害者のスポーツについての意識調査」
- ・大山祐太(2017)「知的障害者スポーツにおけるマネジメントモデル構築に関する研究-若年層ボランティアの活動継続性向上を企図して-」
- ・笹川スポーツ財団 2016「スポーツ庁『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加における障壁等の調査分析) (平成28年度)』
- ・スポーツ庁 2017年「第2期スポーツ基本計画」
- ・スポーツ庁 2015「地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)報告書」
- ・東京都 2012「東京都障害者スポーツ振興計画」,p.17
- ・山本愛 2012「特別支援学校卒業後の知的障害者スポーツの現状と課題」(参照日:2017年6月16日) 56